Windows Server 2016 環境 PostgreSQL 11, 12, 13



■注意事項

```
再インストールの場合は、[インストール先ドライブ]:¥i-RepoLinkフォルダーのバックアップを行ってください。
インストールおよび設定は、ローカルマシンのAdministratorsグループに所属しているユーザーにて行ってください。
```

① インストールフォルダーの配置

```
自己解凍形式のインストールイメージ[i-RepoLinkXXXX?.?.????.exe]を実行して解凍を行ってください。
解凍された[i-Repo]フォルダーを以下ように配置します。
XXXXには、お客様毎に識別子が入ります。
```

?.?.???には、バージョン番号が入ります。

本手順書では、C:¥直下に配置した場合を想定して説明します。 配置フォルダーを変更した場合は、以降の手順に記述されたパスを変更してください。

フォルダー構成

Fig. 1-1

C·X	
I-RepoLink	
⊢ api	・・・・・ apiアプリケーションフォルダー
- client	・・・・・ clientアプリケーションフォルダー
postgreSQL	データーベース格納先 ※変更可能
└ Tools	インストールに必要なツールを格納
– ар	APサーバーインストールに必要なツールを格納
└ db	······ DBサーバーインストールに必要なツールを格納

Fig. 1-2	◎ ホーム		更新状態	
	設定の検索	Q	更新プログラムを利用できます。	
	声 ジャクナーリニッ		• 2017-08 x64 ベース システム用 Windows Server 2	2016 更新プログラム (KB4035631)。
	史新とセキュリナイ		・Windows Defender の定義の更新 – KB2267602	(定義 1.255.280.0)。
	C Windows Update		更新プログラムをインストールする準備ができました	
	Windows Defender	¢	今すぐインストール	各プロダクトのインストールを開始する前に
	① 回復		更新の履歴	「Windows Update」を実行して最新の状態にしてください
		č	この先、基盤製品のインストールの後に	

「Windows Update」を実行して必要な修正モジュールで更新をするようにしてください。

```
② インターネット インフォメーションサービス (IIS) インストール
```



Fig. 2-2	🟫 役割と機能の追加ウイザード	– 🗆 X
	開始する前に	対象サーパー nXProjectHub-Server
	 開始する前に インストールの種類 サーバーの選択 サーバーの役割 機能 確認 結果 	このウィザードを使用すると、役割、役割サービス、または機能をインストールできます。ドキュメントの共有や Web サイトの ホストなどの組織のコンピューティング ニーズに応じて、インストールする役割、役割サービス、または機能を決定します。 役割、役割サービス、または機能を削除するには、次の手順を実行します: 役割と機能の削除ウィザードの起動 続行する前に、次のタスクが完了していることを確認してください。 ・ 管理者アカウントに強力なパスワードが設定されている ・ 静的 IP アドレスなどのネットワークの設定が構成されている ・ Windows Update から最新のセキュリティ更新プログラムがインストールされている 前提条件が完了していることを確認する必要がある場合は、ウィザードを閉じて、それらの作業を完了してから、ウィザード
		続行するには、[次へ]をクリックしてください。 □ 既定でこのページを表示しない(S)
		< 前へ(2) 次へ(1) インストール(1) キャンセル



Fig. 2-4	📐 役割と機能の追加ウイザード				-		×
	対象サーバーの選択	9			nXProj	対象サ - ectHub-Sei	/(– ver
	開始する前に	役割と機能をインストールす	5サーバーまたは仮想ハ	ヽード ディスクを選択します。			,
	1ノストールの種類 サーバーの選択	 ● サーバー ノールからサーバ: ○ 仮想ハード ディスクから通 	_を選択 【択				!
	サーバーの役割 機能 確認	サーバー プール フィルター:					
	結果	名前	IP アドレス	オペレーティング システム			
		nXProjectHub-Server		Microsoft Windows Server 201	16 Standard		
			11-11-1				
		1 台のコンビューターが見つか このページには、サーバー マネ それ以降のリリースの Winde データ収集が完了していない	りました ージャーの [サーバーの退 ows Server を実行し サーバーは表示されまt	â加] コマンドを使用して追加された、Win ているサーバーが表示されます。 オフライン さん。	ndows Serve サーバーや、新	er 2012 ま たに追加る	たは きれて
			<]	前へ(2) 1 次へ(N) > イン	/ストール(<u>I</u>)	キャンセ	μ

(4/43)















Windows Update を実施してください。

③ IIS URL Rewrite Module インストール

以下のファイルを実行してインストールします。

C:¥i-RepoLink¥Tools¥ap¥rewrite_amd64_ja-JP.msi

Fig. 3-1	B IIS URL Rewrite Module 2 セットアップ □	×
	IIS URL Rewrite Module 2 の使用許諾契約書 みください	をお読
	MICROSOFT SOFTWARE SUPPLEMENTAL LICENSE TERM	s
	URL REWRITE MODULE	
	Microsoft Corporation (or based on where you live, one of its affiliates) licenses this supplement to you. If you are licensed to use Microsoft Windows operating system software (the "software"), you may use this supplement You may not use it if you do not have a license for the software. You may use this supplement	u e nt. e nt ∨
	● 使用許諾契約書(こ同意します(A) インスト	- ル
		ンセル

④ ASP.NET Core Runtime インストール

以下のファイルを実行してインストールします。

C:¥i-RepoLink¥Tools¥ap¥dotnet-hosting-3.1.8-win.exe



PostgreSQLの本体をインストール済みの場合は、こちらの手順をスキップしてください。

⑤ PostgreSQL インストール

以下のファイルを実行し、インストールします。

 $C: \verb""" Field the second statement of the second sta$

他のバージョンをインストールする場合は、PostgreSQLのサイトよりダウンロードしてください。



Fig. 5-2	📲 Setup – 🗆 🗙
	Installation Directory
	Please specify the directory where PostgreSQL will be installed. Installation Directory C*Program Files*PostgreSQL¥13 インストールディレクトリを選択します。 特別な理由がない限り以下とします。 C:¥Program Files*PostgreSQL¥13 ※ごこはPostgreSQLのプログラムファイルが配置されるのみで データーの格納場所ではありません。
	VMware InstallBuilder Cancel

Fig. 5-3	Setup	– 🗆 X
	Select Components	
	Select the components you want to install; clear t when you are ready to continue.	he components you do not want to install. Click Next
	PostgreSQL Server	Click on a component to get a detailed description
	Command Line Tools Stack Bu	ider以外はチェックします。
	VMware InstallBuilder	
		Kart Sector S

Fig. 5-4	💕 Setup	– 🗆 X
	Data Directory	
	Please select a directory under which to store your data. Data Directory C:¥i-Repo¥postgreSQL データー格納先のディレクトリとなります。 [i-Repoフォルダー]¥PostgreSQLに変更してく (例) C:¥i-RepoLink¥postgreSQL データの格納場所のため容量が十分な場所を	整理 ▼ 新しいフォルダ-
	VMware InstallBuilder	ck

Fig. 5-5	Setup	– 🗆 X
-	Password	
	Please provide a password for the database superuser (postgres). Password ••••••• Retype password •••••	原則として「cimtops」としてください。 社内規定等により変更する場合は、 以降、
		[データベース作成] [初期データー復元] [アプリケーション設定] の手順の中で、
	VMware InstallBuilder	各ファイルのパスワード記述部分を変更値に修正してください。
	< Back	Next > Cancel

Fig. 5-6	Setup	_		
	Port			
	Please select the port number the server should listen on. Port 5432			
	VMware InstallBuilder	ext >	Cancel	

Fig. 5-7	📲 Setup	_	×
	Advanced Options		
	Select the locale to be used by the new database cluster. Locale C		
	VMware InstallBuilder	xt >	Cancel



Fig. 5-9	🗃 Setup	_		(
	Ready to Install			Î
	Setup is now ready to begin installing PostgreSQL on your computer.			
	VMware InstallBuilder	d >	Cancel	

Fig. 5-10	📲 Setup	_		×
	Installing			
	Please wait while Setup installs PostgreSQL on your computer.			
	Installing			
	Unpacking C:¥Program []L¥12¥doc¥postgresql¥html¥sql-alterpolicy.html			
	VMware InstallBuilder Kack Nex	d >	Can	icel



⑥ データーベース作成

Fig. 6-1

以下のバッチファイルをメモ帳で開いて環境変数を変更します。

C:¥i-RepoLink¥Tools¥db¥1.createdb.bat

バッチファイルの内容

chcp 65001 SET PGPASSWORD=cimtops SET NEWDATABASE=irlkdb SET PGPATH=C:¥Program Files¥PostgreSQL¥13¥bin¥createdb.exe SET LOGPATH=.¥1.createdb.log

"%PGPATH%" -h localhost -p 5432 -U postgres %NEWDATABASE% 2> %LOGPATH% echo CreateDb ErrorLevel=%ERRORLEVEL% >> %LOGPATH%

赤字の部分を変更します。

環境変数	設定値
PGPASSWORD	[postgres]ユーザーのパスワード
	Fig. 5-5で設定したパスワード
NEWDATABASE	データベース名
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
PGPATH	[createdb.exe]のフルパス
	Fig. 5-2で設定したパスの先にある[bin]フォルダー内にあります。
	インストールしたPostgreSQLのバージョンによりパスが異なります。
LOGPATH	実行ログの出力先のパス
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。

■バッチを実行します。

実行するとLOGPATHで設定したファイルができるのでメモ帳で成否を確認します。

ログ内容がErrorLevel=0であれば成功です。

CreateDb ErrorLevel=0

失敗した場合、エラー内容がログに記載されますのでバッチ内容を修正し再実行します。

パスワード間違いの場合

createdb: could not connect to database template1: FATAL: password authentication failed for user "postgres" CreateDb ErrorLevel=1

⑦ 初期データー復元

Fig. 7-1

以下のバッチファイルをメモ帳で開いて環境変数を変更します。

C:¥i-RepoLink¥Tools¥db¥2.restore.bat

バッチファイルの内容

chcp 65001 SET PGPASSWORD=cimtops SET NEWDATABASE=irlkdb SET RESTOREDUMP=.¥irlkdbBase.dump SET PGPATH=C:¥Program Files¥PostgreSQL¥13¥bin¥psql.exe SET LOGPATH=.¥2.restore.log

%PGPATH% -h localhost -p 5432 -U postgres -d %NEWDATABASE% -f %RESTOREDUMP% 2> %LOGPATH% echo Restore ErrorLevel=%ERRORLEVEL% >> %LOGPATH%

赤字の部分を変更します。

環境変数	設定値
PGPASSWORD	[postgres]ユーザーのパスワード
	Fig. 5-5で設定したパスワード
NEWDATABASE	データベース名
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
RESTOREDUMP	インポートに使用するダンプファイルのパス
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
PGPATH	[psql.exe]のフルパス
	Fig. 5-2で設定したパスの先にある[bin]フォルダー内にあります。
	インストールしたPostgreSQLのバージョンによりパスが異なります。
LOGPATH	実行結果ログの出力先のパス
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。

■バッチを実行します。

実行するとLOGPATHで設定したファイルができるのでメモ帳で成否を確認します。 ログ内容がErrorLevel=0であれば成功です。

Restore ErrorLevel=0

実行中のバッチ画面



アプリケーションサーバーとデーターベースサーバーが分離している場合のみ、こちらの設定を行ってください。 同一サーバー内へ構築する場合は、こちらの手順をスキップしてください。 ⑧ アプリケーションサーバー(別ホスト)からの接続設定

PostgreSQLは標準では、自ホストからの接続しかできません。 別ホストから接続できるようにするには次のファイルを変更します。

C:¥i-Repo¥postgreSQL¥pg_hba.conf

これらのファイルは、i-Repo Linkを手順書通りにインストールした場合、 データー格納ディレクトリ

C:¥i-Repo¥postgreSQL

にあります。

設定ファイルの記述に間違いがあると、PostgreSQLが動作しなくなります。 設定変更の前に、必ずバックアップをとってから変更を行ってください。

■[pg_hba.conf]の変更 PostgreSQL に接続するホストを制限します。 1行1レコードの書式で設定を記述してください。

例:

host all all 127.0.0.1/32 md5 host all all 192.168.0.1/32 md5 host all all 192.168.0.2/32 md5

https://www.postgresql.jp/document/11/html/auth-pg-hba-conf.html

■ PostgreSQLの再起動 変更が終了したら、PostgreSQLを再起動することで設定が有効になります。

補足)

ファイアウォールがある場合は、5432のポート開放(TCP、UDP)を行ってください。

⑨ トークン認証用証明書の作成

以下のバッチファイルを実行して証明書を作成します。

C:¥i-RepoLink¥Tools¥ap¥3.createCertificate.bat

■作成された証明書と拇印を確認します。 コントロールパネルを起動してキーワード"証明書"で検索をします。 表示された[コンピューター証明書の管理]をクリックします。

Fig. 9-1	🖭 証明書 - コントロール パネル	_	×
	🗧 🔶 🔹 🕆 國 > コントロール パネル	E明書	×
	ユーザー アカウント ファイル暗号化の証券書の管理 ユーザー証明書の管理 第理ソフル 管理ソフル 管理 ソフル		
	? Windows ヘルプとサポートで "証明書" を検索します		

ツリーから「個人]-「証明書]を選択すると作成した証明書「CimtopsIrlk」が表示されます。 表示された証明書「CimtopsIrlk」をダブルクリックします。



	証明書の[詳細]タブを選択	えして 拇印」を確認します。		
Fig. 9-3	🛺 証明書		×	
	全般 詳細 証明のパス			
	表示(S): <すべて>	~		
	フィールド	値 RSA (2048 Bits)	^	
		0500		
	 ④ サノンエクト キー識別子 ■ キー使用法 	Digital Signature, Key Encipherment (a0))	
	□ 拇印アルゴリズム	sha1	75	
	(日本) 「日本)	i-RepoLink	~	
	<		>	
	fa 7e 6d e5 77 c9 55 53 ce b0 6	6 bb 70 df 75 0c cf 0c f4 f2こちら	の「拇印」を	この後の設定にて使用します。
		プロパティの編集(E) ファイルにコピー((C)	
			ОК	

証明書の[詳細]タブを選択して「拇印」を確認します。

■証明書のセキュリティ設定を変更します。

証明書の管理画面(Fig. 9-2)の証明書「CimtopsIrlk」を右クリックしてポップアップメニューから [すべてのタスク]-[秘密キーの管理]を選択します。

蘠 certlm - [証明書	- ローカル コンピュー	タ−¥個人¥証明書]		- C) ×
ファイル(F) 操作(A)	表示(V) ヘル	プ(H)			
🗢 🔿 🔁 📰	🐇 📭 🗮 🖻) 🗟 👔 📊 右クリック	クしてポップアップ	メニューを表	275
🗊 証明書 - ローカル	コンピューター 🔺	発行先 ^	発	行者	
▼ _ 值人		CimtopsIrlk	Ci	mtopsIrlk	
□ 証明書	L =T 00+6 88	******************	開<(0)		
> 1日根されにルー	下証明復開		and a state of the		
> 🚞 IV9-]	開く(O)		すべてのタ	'スク(K)	\$ > 1
> 🚞 中間証				********	
> 📔 信頼され	新しいキーで証明	書を要求(Q)	切り取り(T)	
> 📔 信頼され	新しいキーで証明	書を書き換え(N)	2E-(C)		
> 📔 サードパ 🛶		in the second se	削除(D)		
> 📔 信頼され 🍾	秘密キーの管理(N	A)	Hanak (D)		
> 📫 クライアン	詳細設定操作(A) >	プロパティ	(R)	
<					>
ET III the Circle	エクスホート(E)		ヘルフ(H)		
証明者の秘密キャに関い	ランノン ビイエン	718			
		 □ certim - [証明書 - □ - カル コンピュ- ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘル □ 2 回 & □ □ 証明書 - □ - カル コンピュ-タ- ○ 個人 ○ 面明書 ○ 個人 ○ 面明書 ○ 二 (重積されたルート証明機関 ○ 二 コンタ- □ 開書 ○ 信頼されたルート証明機関 ○ 二 コンタ- □ 告頼され ○ 信頼され ○ 一 中間証 ○ 一 市間証 ○ 一 市 ○ ○ 一 市 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			

[追加]ボタンをクリックします。

Fig. S	9-5
--------	-----

📜 i-RepoLink private keys のアクセス許可	I	×
セキュリティ		
グループ名またはユーザー名(G):		
SCREATOR OWNER		
Administrators (NXPROJECTHUB-S	E¥Administrators)	
4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	追加(D)	削除(R)

アクセス許可(P): CREATOR OWNER	許可	
フル コントロール	\checkmark	
読み取り	\checkmark	
特殊なアクセス許可		
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示す	する <u>詩</u>	細設定(V)
OK	キャンセル	適用(A)

[場所の指定]でローカルサーバーが選択されていることを確認して[詳細設定]ボタンをクリックします。

Fig. 9-6	ユーザー または グループ の選択 >	<
	オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>): ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル オブジェクトの種類(<u>O</u>)	
(* 場所の指定(F): NXPROJECTHUB-SE ・]
	選択するオ ¹ ジェクト名を入力してください (例)(E): 名前の確認(C)]
]

[検索]ボタンをクリックして表示されるユーザー一覧から「IIS_IUSRS」を選択してダブルクリックします。

Fig. 9-7	ユーザー または グループ の選択		×
	オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>):		
	ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ ブリ	ンシパル	オブジェクトの種類(<u>O</u>)
	場所の指定(<u>F</u>):		
	NXPROJECTHUB-SE		場所(<u>L</u>)
	共通クエリ		
	名前(<u>A</u>): 次の文字で始まる ~		列(<u>C</u>)
	説明(<u>D</u>): 次の文字で始まる ~		検索(<u>N</u>)
	無効になっているアカウント(B)		中止①
	□ 無期限のパスワード(X)		
	金回口グオン時からの日数小。		<i>\$</i>
	前国ロッパン時からの日数(1):	×	
	検索結果(U):		OK キャンセル
	名前	フォルダー	^
		NXPROJECTHUB-SE	
	RINTERACTIVE		
	A IUSR 「IIS IUSRS」を選択してダ	ブルクリック	
	Network Configuration Operators	NXPROJECTHUR-SE	
	Retwork service		
	A OWNER RIGHTS		
	🗟 Performance Log Users	NXPROJECTHUB-SE	
	Reformance Monitor Users	NXPROJECTHUB-SE	
	💐 Power Users	NXPROJECTHUB-SE	~

[OK]ボタンをクリックしてユーザーを追加します。

Fig.	9-8
2	

オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>):	
ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリン	シパル オブジェクトの種類(
場所の指定(<u>F</u>):	
NVDDOJECTUUD, CE	
INXPROJECTHUB-SE	場所(<u>L</u>)
NXPROJECTHOB-SE 	場所(L)
WAPROJECTHUB-SE 選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E): NXPROJECTHUB-SE¥IIS IUSRS	場所(L) 名前の確認(C)
NXPROJECTHUB-SE 選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E): NXPROJECTHUB-SE¥IIS IUSRS	場所(L) 名前の確認(C
NXPROJECTHUB-SE 瞿択するオブジェクト名を入力してください (例)(E): NXPROJECTHUB-SE¥IIS IUSRS	場所(L) 名前の確認(<u>C</u>

追加した「IIS_IUSRS」を選択して[アクセス許可]の[フル コントロール]にチェックが入っていることを確認して [OK]ボタンをクリックします。



```
i-Repo Link サーバー構築手順書
```

```
⑩ アプリケーション設定
```

以下の設定ファイルをメモ帳で開いて設定を変更します。

C:¥i-RepoLink¥api¥appsettings.Production.json

```
設定ファイルの内容
```

Fig. 10-1 **{**

```
"Logging": {
  "LogLevel": {
   "Default": "Information"
 }
 },
 "AllowedHosts": "*",
 "ConnectionStrings": {
 "IrlkDatabase": "Host=localhost;Port=5432;Database=irlkdb;Username=postgres;Password=cimtops"
 },
 "IreporterLinkSettings": {
 "ApiPath": "i-Repo Linkと連携するi-Reporterの外部連携APIの接続先サーバーURLを設定",
 "UserId": "conmasadmin",
 "Password": "i-Repo Linkと連携するi-Reporterのconmasadminユーザーのパスワードを設定",
 "TimeZone": "Asia/Tokyo"
 },
 "AuthSettings": {
 "CertificateThumbprint":"証明書の拇印を設定",
 }
}
```

赤字の部分を変更します。

環境変数	設定値
ConnectionStrings	データベースの接続情報
IrlkDatabase	i-Repo Linkのデータベース
Host	ホスト名
	アプリケーションサーバーと同じ場合は、[localhost]となります。
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
Port	ポート番号
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
Database	データベース名
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
Username	ユーザー名
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
IreporterLinkSettings	i-Repo Linkの連携先i-Reporterの情報
ApiPath	i-Reporterの外部連携APIの接続先サーバーURL
	必ず設定を変更してください。
	この後のページに記載したApiPathのアクセス確認をしてください。
UserId	i-ReporterのユーザーID
	デフォルトはconmasadminとなります。
Password	[UserId]に設定したi-Reporterユーザーのパスワード
	必ず設定を変更してください。
TimeZone	i-Reporterのデータベースのタイムゾーン
	通常はデフォルトのまま変更する必要はありません。
AuthSettings	認証情報
CertificateThumbprint	トークン認証用証明書の拇印
	Fig. 9-3で確認した証明書の拇印 ※空白を含めないようにしてください。
	必ず設定を変更してください。

```
設定ファイル例
```

```
{
 "Logging": {
  "LogLevel": {
   "Default": "Information"
  }
 },
 "AllowedHosts": "*",
 "ConnectionStrings": {
  "IrlkDatabase": "Host=localhost;Port=5432;Database=irlkdb;Username=postgres;Password=cimtops"
 },
 "IreporterLinkSettings": {
  "ApiPath": "https://192.168.0.1/ConMasAPI/Rests/APIExecute.aspx",
  "UserId": "conmasadmin",
  "Password": "cimtops",
  "TimeZone": "Asia/Tokyo"
 },
 "AuthSettings": {
  "CertificateThumbprint" : "fa7e6de577c95553ceb066bb70df750ccf0cf4f2"
 }
}
```

■ApiPath(i-Reporterの外部連携APIの接続先サーバーURL)のアクセス確認

i-Repo Linkサーバーのブラウザを起動してApiPathへアクセスができるかを確認してください。 正常にアクセスができると以下の画面がブラウザに表示されます。 エラーメッセージ等が表示される場合は、i-Reporterのサーバーへアクセスができるように調整してください。



ご指定のURLはブラウザでは閲覧できません

末尾が〈ConMasIReporter.aspx〉のURL ConMas Designer、i-Reporterアプリ(iOS/Windows)に設定してください。

末尾が〈APIExecute.aspx〉のURL

APIを利用するプログラムが利用します。

サポートWEB https://cimtops-support.com/i-Reporter/

⑪ アプリケーション配置

■アプリケーション プールを追加します。

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。

画面ツリーの[アプリケーション プール]を右クリックしてポップアップメニューから[アプリケーション プールの追加]を選択します。 – 🗆 X

Fig. 11-1 🏽 🏹 インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー

	HUB-SE ▶ アプリケーション プール			🖾 🖄 🔞 -
ファイル(F) 表示(V) ヘルプ(H)				
接続 スタートページ スタートページ NXPROJECTHUB-SE NXPR ・ ・ アブリケーション ブール・・・ サイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アプリケーション のページでは、アブリケーション ブーンができます。アブリケーション ブールの追加	プール -ルの一覧 パールはワー 3ンを含み、	を表示および管理す カー プロセスに関連 異なるアプリケーショ	操作 アプリケーション プールの追加 アプリケーション プールの既定値の 設定
右クリック	名前 @ DefaultAppPool	◆ ¥ 读 状態 開始	:#*(0) ・ テ .Net CLR パージョン v4.0	
< >>	< 、 、 、 <		>	
準備完了				S.:

アプリケーションプールの追加画面に以下の情報を入力して[OK]ボタンをクリックします。

Fig. 11-2	アプリケーション プールの追加	?	×	
	名前(N):			
	.Net CLR バージョン(C):			「i-RepoLinkAppPool」と入力
	マネージョードなし		~	「マネージ コードなし」を選択
	マネーシ バイフライフ モート(M): 統合	「統合」を選	択	
	☑ アプリケーション プールを直ちに開始	する(S) ―	Ŧ	エックされていることを確認
	OK .	キャンセル		

Fig. 11-3	♥゚゚゚゚゚゚゚ゴ インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー	-		×
	← → alpha ト NXPROJECTHUB-SE ト アブリケーション プール	•	🛛 🏠	• 🕥
	ファイル(F) 表示(V) ヘルプ(H)			
	 接続 スタート・ページ スタート・ページ NXPROJECTHUB-SE (NXPR アブリケーション ブールの一覧を表示および管理す ることができます。アブリケーション ブールの一覧を表示および管理す ることができます。アブリケーション ブールはワーカー ブロセスに関連 付けられ、1 つ以上のアブリケーションを含み、異なるアブリケーショ ンを分離させます。 アイルター: ・ * 検索(G) * Aルブ 	/ヨン ブ- /ヨン ブ-	-ルの追加 -ルの既定	l :値の
				• <u>-</u>

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーに[i-RepoLinkAppPool]が追加されます。

■「i-RepoLink」フォルダーを作成します。 インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。 画面ツリーの[Default Web Site]を右クリックしてポップアップメニューから[エクスプローラー]を選択します。

Fia. 11-4		-
5		
	I → NXPROJECTHUB-SE → 71 ト → Default Web Site →	
	ファイル(F) 表示(V) ヘルプ(H)	
	接続 Default Web Site ホーム	操作
		エクスプローラー アクヤス許可の編集
	× ● NXPROJECTHUB-SE (NXPR	サイトの編集 バインド 国 基本設定
	レビーロー エクスプローラー MIME の種類 アクセス許可の編集	アプリケーションの表示 仮想ディレクトリの表示
	右クリック アプリケーションの追加 び想ディレクトリの追加 URL 書き換え	Web サイトの管理
	バインドの編集 Web サイトの管理 →	■ 停止 Web サイトの参照
		[望] *:80 (http) 参照 詳細設定
	名前の変更 モジュール コンテンツビューに切り替え レ	18670 制限 ヘルプ
	< > 2 機能ビュー 📑 機能ビュー	
	準備完了	¶.:

	新規作成で「i-RepoLink」フォルダ	-を	作成します。				
Fig. 11-5	📊 🛃 📑 = www.root				-	- 🗆	×
	ファイル ホーム 共有 表示						~ 🕐
	\leftarrow \rightarrow \checkmark \uparrow \square \ll inetpub $>$	wv	vwroot >	~ Ō	wwwr	ootの検索	Q
	📲 ビデオ	۸	名前		^		
	🎝 ミュージック	>	i-RepoLink			新規フォルタ	ーを作成
	🏪 ローカル ディスク (C:)		🧿 iisstart.htm				
	inetpub		🛤 iisstart.png				
	custerr						
	history						
	📙 logs						
	temp						
	wwwroot						
	📊 i-RepoLink	4	<				>
	3 個の項目 1 個の項目を選択						i== 📼

エクスプローラーに[Default Web Site]のルートディレクトリが表示されます。 新規作成で「i-RepoLink lフォルダーを作成します。

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーに戻り[最新の情報に更新](F5)を実行すると [Default Web Site]の配下に[i-RepoLink]フォルダーが表示されます。



■アプリケーションを追加します。

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。

画面ツリーの[i-RepoLink](Fig. 11-6で追加)を右クリックしてポップアップメニューから[アプリケーションの追加]を選択します。 以下の手順を繰り返して「api」、「client」の2つのアプリケーションを追加してください。

Fig. 11-7



アプリケーションの追加画面に以下の情報を入力して[OK]ボタンをクリックします。

	追加するアプリケーション 1 「api」
Fig. 11-8	アプリケーションの追加 ? ×
	サイト名: Default Web Site パス: /i-RepoLink エイリアス(A): 「apiJと入力 アプリケーションプール(L): api i-RepoLinkAppPool」を選択 選択(E)
	例: sales 物理パス(P): C:¥i-RepoLink¥api パススルー認証 接続(C) テスト設定(G)
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

追加するアプリケーション 2 「client」

Fig. 11-9	アプリケーションの追加 ? ×
	サイト名: Default Web Site パス: /i-RepoLink エイリアス(A): 「Client」と入力 アプリケーションプール(L): Client 何: sales 物理パス(P): 「C:¥i-RepoLink¥Client」フォルダーを選択 C:¥i-RepoLink¥client …
	パススルー認証 接続(C) テスト設定(G) つ プリロードの有効化(N) OK キャンセル

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーの[i-RepoLink]フォルダーの配下に [api]と[client]のアプリケーションが追加されます。



■アプリケーションのセキュリティ設定を変更します。

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。

_画面ツリーの[api](Fig. 11-8で追加)を右クリックしてポップアップメニューから[アクセス許可の編集]を選択します。

Х

Fig. 11-12 🂱 インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー



[セキュリティ]タブを選択して[編集]ボタンをクリックします。 Fig. 11-13 📜 apiのプロパティ \times 全般 共有 セキュリティ・以前のバージョン カスタマイズ オブジェクト名: C:¥nXProjectHub¥api グループ名またはユーザー名(<u>G</u>): **SECREATOR OWNER** SYSTEM Administrators (NXPROJECTHUB-SE¥Administrators) Sers (NXPROJECTHUB-SE¥Users) 編集(E)... アクセス許可を変更するには[編集]を クリックします。 アクセス許可(P): CREATOR OWNER 許可 拒否 フル コントロール \land 変更 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り 書き込み v 特殊なアクセス許可または詳細設定を表示する 詳細設定(⊻) には、[詳細設定]をクリックします。 ОК キャンセル 適用<u>(A</u>)

[追加]ボタンをクリックします。

📊 api のアクセス許可		×
セキュリティ		
オブジェクト名: C:¥nXProjectHub グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):	¥api	
Image: CREATOR OWNER Image: System Image: System Image: Administrators (NXPROJECTHUE) Image: Users (NXPROJECTHUE)	JB-SE¥Administrators) ers)	
	追加(<u>D</u>)	削除(<u>R</u>)
アクセス許可(P): CREATOR OWNER フル コントロール 変更	許可 □ □	
読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り		
ОК	キャンセル	適用(<u>A</u>)
	api のアクセス許可 セキュリティ オブジェクト名: C:¥nXProjectHub グルーブ名またはユーザー名(G): 線 CREATOR OWNER 線 SYSTEM 線 Administrators (NXPROJECTHUB & Users (NXPROJECTHUB-SE¥Us) アクセス許可(P): CREATOR OWNER ブル コントロール 変更 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り	api のアクセス許可 セキュリティ オブジェクト名: C:¥nXProjectHub¥api グループ名またはユーザー名(G): 健 CREATOR OWNER 健 SYSTEM 健 Administrators (NXPROJECTHUB-SE¥Administrators) 健 Users (NXPROJECTHUB-SE¥Users) アクセス許可(P): CREATOR OWNER 許可 フルコントロール 二 変更 二 読み取りと実行 二 フォルダーの内容の一覧表示 二 読み取り 〇K

[場所の指定]でローカルサーバーが選択されていることを確認して[詳細設定]ボタンをクリックします。

Fig. 11-15	ユーザー または グループ の選択	~
	オブジェクトの種類の選択(S): ユーザー、グルーブ または ビルトイン セキュリティ ブリンシパル オブジェクトの種類(Q)]
	場所の指定(L): NXPROJECTHUB-SE ローカルサーバーが表示されていることを確認 場所(L) 選択するオンジェクト名を入力してください (例)(E):]
	名前の確認(_)	
	詳細設定(A) OK キャンセル]

[検索]ボタンをクリックして表示されるユーザー一覧から「LOCAL SERVICE」を選択してダブルクリックします。

Fig. 11-16	ユーザー または グループ の選択				×
	オブジェクトの種類の選択(S):				
	ユーザー、グループ または ビルトイン セ	!キュリティ プリンシパル		オブジェクトの種類(<u>O</u>)	
	場所の指定(<u>F</u>):				
	NXPROJECTHUB-SE			場所(<u>L</u>)	
	共通クエリ				
	名前(<u>A</u>): 次の文字で始まる	~		列(<u>C</u>)	
	説明(<u>D</u>): 次の文字で始まる	~		検索(<u>N</u>)	
	無効になっているアカウント(B)			中止①	
	─ 無期限のパスワード(X)				
	金回りがたい時もこの日数小。			<i>\$</i> 7	
	町回ロクオン時からのロ数(1):	~			
	検索結果(U):		O	く キャンセル	
	名前	フォルダー			~
	A NETWORK				
	Network Configur	SERVICE」を選択してダブルクリック-SE			
	A OWNER RIGHTS				
	Reformance Log Users	NXPROJECTHUB-SE			
	Reformance Monitor Users	NXPROJECTHUB-SE			
ł	Rower Users	NXPROJECTHUB-SE			
	Rint Operators	NXPROJECTHUB-SE			
	RDS Endpoint Servers	NXPROJECTHUB-SE			
	KDS Management Servers	NXPROJECTHUB-SE			\mathbf{v}

[OK]ボタンをクリックしてユーザーを追加します。

Fig. 11-17	ユーザー または グループ の選択		×
	オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>):]	
	ユーザー、クルーフ または ビルトイン セキュリティ フリンシバル		オブジェクトの種類(<u>O</u>)
	場所の指定(<u>F</u>):		
	NXPROJECTHUB-SE		場所(<u>L</u>)
	選択するオブジェクト名を入力してください (例)(<u>E</u>):		
	LOCAL SERVICE		名前の確認(<u>C</u>)
	, 詳細設定(<u>A</u>)	Ok	キャンセル

追加した「LOCAL SERVICE」を選択して[アクセス許可]の[変更]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。



■フォルダーのセキュリティ設定を変更します。

インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。

画面ツリーの[api](Fig. 11-8で追加)を展開して[Logs]フォルダーを表示します。

画面ツリーの[Logs]フォルダーを右クリックしてポップアップメニューから[アクセス許可の編集]を選択します。

_

 \times

Fig. 11-19 🎕 インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー



[セキュリティ]タブを選択して[編集]ボタンをクリックします。

Fig. 11-20	📕 Logsのプロパティ	×
	全般 共有 、 セキュリティ い前のパージョン カスタマイズ	
	オブジェクト名: C.¥nXProjectHub¥api¥Logs グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):	
	REATOR OWNER	^
	Administrators (NXPROJECTHUB-SE¥Administrators)	~
	アクセス許可を変更するには[編集]を クリックします。	
	アクセス許可(P): CREATOR OWNER 許可 拒否	_
	フル コントロール 変更 読み取りと実行	^
	フォルダーの内容の一覧表示	
	読み取り 書き込み	~
	特殊なアクセス許可または詳細設定を表示する には、[詳細設定]をクリックします。 詳細設定]をクリックします。	
	OK キャンセル 適用(A	<u>)</u>

[追加]ボタンをクリックします。

Fig. 11-21	Logs のアクセス許可	×
	セキュリティ	
	オブジェクト名: C:¥nXProjectHub¥api¥Logs グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):	
	CREATOR OWNER SYSTEM LOCAL SERVICE Administrators (NXPROJECTHUB-SE¥Administrators) Users (NXPROJECTHUB-SE¥Users)	
	<u>追加(D)</u> 削除(<u>R</u>)	
	<u>アクセス許可(P)</u> : CREATOR OWNER 許可 拒否	
	フルコントロール □ ^ 変更 □ □ 読み取りと実行 □ □ フォルダーの内容の一覧表示 □ □ 読み取り □ □	
	OK キャンセル 適用(A)	

[場所の指定]でローカルサーバーが選択されていることを確認して[詳細設定]ボタンをクリックします。

Fig. 11-22	ユーザー または グループ の 選択	×
	オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>):	
	ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種類(<u>O</u>)
	**場所の指定(<u>F</u>):	
	NXPROJECTHUB-SE ローカルサーバーが表示されていることを確	認場所(<u>L</u>)
	温いす シバアフェンド 石を入力してくたさい (四)(日)・	
		名前の確認(⊆)
	● <mark>↓</mark> 詳細設定(<u>A</u>)●	キャンセル

[検索]ボタンをクリックして表示されるユーザー一覧から「IIS_IUSRS」を選択してダブルクリックします。

Fig. 11-23	ユーザー または グループ の選択		×]
	オブジェクトの種類の選択(S):			
	ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパ	Jμ	オブジェクトの種類(<u>O</u>)	
	場所の指定(<u>F</u>):			
	NXPROJECTHUB-SE		場所(<u>L</u>)	
	共通クエリ			
	名前(<u>A</u>): 次の文字で始まる ~		列(<u>C</u>)	
	説明(<u>D</u>): 次の文字で始まる ∨		検索(<u>N</u>)	
	─ 無効になっているアカウント(<u>B</u>)		中止①	
	── 無期限のパスワード(X)			
	前回ログオン時からの日数(1): 🗸 🗸 🗸		<i>\$</i>	
			0K +++>++1	
-	検索結果(U):			
	名前	フォルダー	^	
		NXPROJECTHUB-SE		L
	記USR LOCAL SERVICE	ダブルクリック		
	Retwork			
	K Network Configuration Operators	NXPROJECTHUB-SE		
	Rights			
	Reformance Log Users	NXPROJECTHUB-SE		
	K Performance Monitor Users	NXPROJECTHUB-SE	~	

[OK]ボタンをクリックしてユーザーを追加します。

Fig.

11-24	ユーザー または グループ の選択			×
	オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>):			
	ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル		オブジェクトの種類(<u>O</u>)	
	場所の指定(<u>F</u>):			
	NXPROJECTHUB-SE		場所(<u>L</u>)	
	選択するオブジェクト名を入力してください (例)(<u>E</u>):			
	NXPROJECTHUB-SE¥IIS IUSRS		名前の確認(<u>C</u>)	
		***	A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	
	計神記, 上(<u>A</u>)	UK	++721	

追加した「IIS_IUSRS」を選択して[アクセス許可]の[変更]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。



⑫ ログイン確認

以下のURLを入力してログイン画面が表示されることを確認してください。 ホスト名 or IPアドレスには、アプリケーションサーバーを指定してください。

クライアント画面(PC端末のWebブラウザ)

http://[ホスト名 or IPアドレス]/i-RepoLink/client/login

i-Reporterのアカウントを使用してログインしてください。 ※画面イメージはクライアント画面です。

え i-Repo Link</th <th>Version:1.0.221202</th>	Version:1.0.221202
🞽 userID	
password	
ログイン	

ログインに失敗する場合は、アプリケーションサーバー上の以下のログファイルを確認してください。 エラーが解消されない場合は、弊社宛にログファイルを送付ください。

C:¥i-RepoLink¥api¥Logs¥irlk-[yyyy-mm-dd].log※[yyyy-mm-dd]は日付です。C:¥inetpub¥logs¥LogFiles¥W3SVC1¥u_ex[yymmdd].log※[yymmdd]は日付です。

※ログインに失敗する場合に以下をお試しください。

■確認1

バージョン情報の確認

http://[ホスト名 or IPアドレス]/i-RepoLink/api/about

上記のバージョン確認にてエラーとなりWebDAVに関するエラー情報が表示された場合は、以下の設定変更をお試しください。

以下の設定ファイルをメモ帳で開いて設定を変更します。 設定を変更する前にファイルをバックアップしてください。

C:¥i-RepoLink¥api¥web.config

設定ファイルの内容

xml version="1.0" encoding="utf-8"?
<configuration></configuration>
<location inheritinchildapplications="false" path="."></location>
<system.webserver></system.webserver>
<modules></modules>
<remove name="WebDAVModule"></remove>
<handlers></handlers>
<remove name="WebDAV"></remove>
<add modules="AspNetCoreModuleV2" name="aspNetCore" path="*" resourcetype="Unspecified" verb="*"></add>
<aspnetcore hostingmodel="inprocess" processpath=".¥Irlk.exe" requesttimeout="00:20:00" stdoutlogenabled="false" stdoutlogfile=".¥logs¥stdout"></aspnetcore>
赤字の部分をコメントアウトまたは削除します。
ファイルを保存後にIISを再起動してください。
問題が解決しない場合は、バックアップした設定ファイルに戻してください。

■確認2

iOS、iPadOSのSafariをご利用の場合は、設定の「すべてのCookieをブロック」がONになっていないことをご確認ください。